

=マイナンバー制度を止めよう！

● 個人情報と人権を守るために

それでは、市民がこの制度に反対し身を守るにはどうしたらいいのでしょうか。

まず、**個人番号カードの申請をしないこと**。政府は普及のために様々な手を打ってきますが、落としたり盗まれたりした場合の危険性を考えれば、顔写真つきのICカードなどは作らないことが当座の自衛手段として有効です。

・**個人番号カードを作らなくとも、従来通りの方法で本人確認は可能です(運転免許証・パスポート等)**

・**個人番号カードを作るメリットは現在ほとんどありません。もっと言えば、マイナンバー制度自体が市民にとって大したメリットにはなりません。共通番号なしでも、情報連携で書類省略を実現している自治体もあります。**

もちろん、銀行口座との連携が始まってでも無視しましょう。**3年後には義務化**するという大変な悪巧みが進行中ですが、当面は作る・作らないは任意です。

また運用開始後しばらくは、マイナンバー未記入の書類もつつがなく受理されます(国税庁が調べて記入するそうです)。ただし将来どうなるかは全くわかりません。

・**「公平公正な社会の実現」に資するものとされていますが、この制度で事業所得や海外資産の把握はできません。より**

厳しく管理・監督されるのは、普通に働いている庶民だけです。

・**マイナンバーは住民票コードを元に付番されるので、住居を持たない人をシステムから排除する性格を持ちます。保護や救援よりも、管理と監視に特化した制度と言えるでしょう。**

そして現在、この制度の違憲性と危険性を訴え、政府に運用延期や廃止を求める市民運動が活発化しています。私も今年7月「自治体議員緊急共同アピールに加わって声明を出しました。

詳しい情報やデータが見られますので、是非こちらのサイトを覗いてみてください。

共通番号いらないネット

(<http://www.bango-iranai.net/>)

来年1月の運用開始をにらみ、私は次の議会でも制度の問題点を諦めずに訴えます。国民・市民の血税を投入し、IT業界に1兆円市場と言われるバブル景気を生み出して、住民側にはベネフィットなくリスクを肥大化させるこの共通番号制度、みんなの力で必ず廃止に追い込んでいきましょう。

くらしと文化

活動場所づくりは市民主体で

一般質問ではもう一つ、市民の文化活動拠点について取り上げました。

今年4月に西永山複合施設が閉鎖され、利用者は東永山複合施設に移ることとなりました。しかしこの東永山も暫定的な施設であり、市では恒久的な市民文化活動の拠点として、旧北貝取小の跡地を再利用するとしています。しかし同跡地は文化財の保管・展示という役目も担っており、また立地条件が良好とは言いがたく、市民のニーズに十全に応え得るものかどうか危ぶまれるところです。

そこで今回の質問では、計画の進捗状況を明らかにさせると共に、現実の市民サークルの活動内容や実態を踏まえた運用がなされるのかどうか、に的を絞って質疑を行いました。更に市民プロジェクトの立ち上げ、希望者全員の市民会議や行政を交えた懇談会などの設置を求めました。

市側の答弁は、主に以下のようなものでした。

・**現在、文化財管理・展示エリアと市民活動エリアの配分を含め検討中。**

・**パブリックコメントやワークショップの結果も含め、広く市民の声や要望を聞き取り、今ある活動団体だけでなく多様な側面からニーズを把握していく。**

多摩市は自治基本条例で市民自治の精神を大きく謳っています。これが「絵に描いた餅」にならぬよう、今後も市民を巻き込んだ計画立案を求めています。当市は市民活動が活発な街と言われていますし、特に阿部市政のスローガンである「健幸都市づくり」の観点からも、文化活動拠点の整備は重要な施策となるはずで

また、東永山複合施設の跡地には医療施設の建設が予定されており、多摩ニュータウン再生計画を視野に入れた確実な実施を望むところです。

